

## 2-1 事前研修

### 第1回事前研修 6月19日(日)10:00から16:30まで 場所:JICA兵庫

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| ① 参加者及び関係者自己紹介       |                      |
| ② 教師海外研修概要説明         |                      |
| ③ JICA 事業概要説明        |                      |
| ④ 現時点の研修国での日程説明      | 講師：JICA 担当者          |
| ⑤ ワークショップ            | 講師：荒川共生氏（ボルネオ保全トラスト） |
| ・ 開発教育概論             |                      |
| ・ 持続可能な開発（研修テーマ）について |                      |
| ・ ワークショップ手法の習得       |                      |
| ⑥ 青年海外協力隊体験談         | 講師：中島健治氏（元青年海外協力隊員）  |

今年度は、JICA 兵庫及び JICA 大阪が合同で教師海外研修事前研修を実施した。サモアコース7人、タンザニアコース9人、計16人での初顔合わせであった。JICA 事業概要及び本研修について説明を受け、開発教育がどういったものであるのか、またどのような手法があるのかを学んだ。

### 第2回事前研修 7月 9日(土)10:30から21:00まで 10日(日) 9:30から16:30まで 場所:JICA兵庫

#### 【7月9日(土)】

- |                    |   |
|--------------------|---|
| ① 学校現場における実践授業事例紹介 | 講師：大槻一彦氏（京都市立堀川高等学校）                        |
| ② 過去の参加者による報告      | 講師：加藤育子氏（大阪府立春日丘高等学校）<br>斎木英範氏（大阪府立北千里高等学校） |
| ③ 派遣国事情            | 講師：倉光ミナ子氏（天理大学地域文化学科）                       |
| ④ グループワーク          |   |

#### 【7月10日(日)】

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| ① 目覚ましワークショップ      | 講師：JICA 担当者          |
| ② ワークショップ（貿易ゲーム）   | 講師：荒川共生氏（ボルネオ保全トラスト） |
| ③ 渡航手続きについて        | 講師：JICA 担当者          |
| ④ ワークショップ          | 講師：荒川共生氏（ボルネオ保全トラスト） |
| ・ 海外研修の経験の整理       |                      |
| ・ 授業実践に向けたカリキュラム作り |                      |

第1回事前研修で学んだ開発教育を、実際に教育現場でどのように実践しているのかを聞き、また過去の参加者たちが海外研修での学びをどう教材化し、反省があったのかなどの報告を受けた。派遣国事情ではサモアという国への理解を深め、また、ワークショップを通して日本と他国とのつながりを知った。その後、参加者たちが帰国後にどのような授業を実践するのかを具体化する作業を行った。

## 2-2 海外研修 訪問先所感

海外研修 7月26日(火)から8月1日(月)まで

7月26日(火)

カバの儀式



**【目的】** サモアの伝統的な儀式に参加し、その伝統と文化に触れる。

最初は厳かな雰囲気緊張したけれど感動した。この感動を上手く表現できないけれど、彼らが大切にしてきた文化を体験させてくださったマタイ(村の首長たち)に感謝。この儀式は頻繁に行うものではないらしいけれど、サモアらしい文化をこれからも後世に継いでいってほしいと感じた。(小林)

JICA サモア支所



**【目的】** 研修日程の説明及びサモアにおける JICA 事業について理解を深める。

サモア支所で派遣されている相葉支所長や職員の方のお話を聞いてサモアの現状を知る。

支援にもいろいろなやり方があるが、日本の行っている人道的な支援の成果は目に見えにくい。難しい問題である。(稲崎)

アピア市内視察



**【目的】** 市内視察により、日本とサモアとの共通点や違い、文化を知る。

市の中心部は時計塔を中心に歩いて行ける範囲内におさまり、海岸沿いにはコロニアルスタイルの街並みが見られた。市場は活気にあふれていたが、一部では貧困の一面もみることができた。(壺井)

7月27日(水)

学校訪問  
(Moata'a Primary School)



**【目的】** 青年海外協力隊の活動現場を視察し、サモアの教育及び日本との違いを知る。

日本の古き良き学校の側面があり、先生の言うことをよく聞き秩序がある。子供は学校が好きである。教科書がなく復習困難、授業が一方通行で生徒の思考力や表現力、応用力を身につける機会に乏しいことが課題である。(西本)

学校訪問  
(Sagaga Secondary School)



**【目的】** 青年海外協力隊の活動現場を視察し、サモアの教育及び日本との違いを知る。

足元は穴だらけで、天井が落ちそうなホールに集まってきた生徒たちは、とても純粋だった。日本の小学4. 5. 6年生の反応に感じた。サモアでは「garbage」を「rubbish」ということや、サモアの風土やごみ問題に対する意識が日本とは全く違うことにも気づき、授業では伝えたいことが伝えられなかった。

教職員の食事(今回はウム料理)を授業時間に生徒が用意していることや、生徒が給仕したり、食事中うちわであおいでくれたことに衝撃をうけた。しかし生徒たちは本当に純朴だった。教頭先生の指揮のもと、素晴らしい歌声に感動した。(藤田)

7月28日(木)

学校訪問  
(Vaimea Primary School)



**【目的】 青年海外協力隊の活動現場を視察し、サモアの教育及び日本との違いを知る。**

規律が厳しい学校で、よく生徒がしつけられていた。その反面、生徒は自分を表現することを許されていない様子だった。ムチをもって生徒を見張り、少し声を上げて笑ったり、教師の目に留まった生徒は叩かれていた。

美術の授業では、福笑いでおもしろい顔をつくろうと言っているのに、教師が「違う、右だ、もっと右！」などと口を挟んできて、子供たちの笑顔が消えてしまった。失敗して笑うのが福笑いなのに…失敗は許されない様子。

絵を描かせたときも、ちょっと上手く出来ない生徒の作品を取り上げ、教師が描いてしまうのには驚き…失敗はゆるされないのだ。(小林)

学校訪問  
(Lefaga Secondary School)



**【目的】 青年海外協力隊の活動現場を視察し、サモアの教育及び日本との違いを知る。**

海を望むファレが教室だった。数学と理科の授業を見学したが、理系の授業は苦戦しているようだった。生徒が、教師の昼ごはんの準備、後片付けをしていたのが印象的だった。歌が上手で、日本の歌を紹介するとすぐに覚えて歌ってくれた。(壺井)

7月29日(金)

Tafaigata 埋立地視察



**【目的】 技術協力プロジェクトの現場を視察し、急激な近代化に伴う廃棄物問題を知る。**

日本の福岡方式が導入され、数年で改良された埋立地は、においもあまりなく、国際協力専門家の天野さんの話からも、JICAの功績は素晴らしいと実感した。ごみを焼却する日本の方法は、日本の経済力と風土によるもので、それをそのままサモアに導入できない現状も初めて理解できた。ごみの減量化について、サモアの人々一人ひとりが意識をしっかりと持たないとごみ問題は深刻化していくと感じた。(藤田)

国立公園・自然保護区視察



**【目的】 サモアが抱える環境問題の現場を視察し、日本の協力や今後の課題について理解を深める。**

施設整備に留まらず、利用促進(ガイド育成)・調査研究をしていた点に、好感を抱いた。気づかれないうちに今後失われていくであろう自然の調査や保全は、数十年後のサモアの人々から感謝され、尊敬される仕事であると思う。(西本)

JICA ボランティアとの懇親会



**【目的】 JICA 職員やボランティアから、サモアでの活動における生の声を聴く。**

今まで出合った協力隊の皆さんやJICA サモア支所の皆さんが集合。全ての方とは話しをすることができなかったが、皆さんのサモアへの思い、サモアの現状を聞くことができた貴重な時間だった。(瀧口)

7月30日(土)・31日(日)

ホームステイ



**【目的】首都との違いやサモアの伝統的な生活・習慣などを体験し、理解を深める。**

- ・星空が感動であった。
- ・食事をみんなでとるのではなく、家長と自分たちだけで先にとるのに、違和感があった。みんなでワイワイ食べる方がやはり、楽しいと思った。
- ・その家の人ではない人が、料理を手伝ったり、何かうろうろしていたりと地域コミュニティの深さを感じた。
- ・みんなが気をつけてくれて、とても快適な楽しいホームステイになった。(小倉)

ウム料理



**【目的】サモアの伝統的な生活・習慣などを体験し、理解を深める。**

豚を料理するのをはじめて見た。自分が日本で食べている豚も同じように生きていたのだと思うと、自分が生き物の命を粗末にしていたと反省した。「命をいただく」ことを忘れてはいけないと思う。

炉を作るところからを見せていただいたが、何一つゴミのない生活。自然のものを使い、使い終わっても自然に戻るものばかり。生活の知恵には驚くことばかりだった。(稲崎)

8月1日(月)

Aleipata 津波被災地視察



**【目的】2009年サモア沖地震による津波の被害の現状を視察し、その現状と課題を知る。**

校長先生より、津波時の様子を聞く。東日本の津波より犠牲者は少ないもののかなりの建物被害を受けたという。水の代わりにココナッツの汁を飲んで過ごしていたということを知り、自然の恵みのありがたさを感じた。(瀧口)

JICA サモア支所 (報告会)



**【目的】海外研修での気づきや感じたことを振り返る。**

他の6名の報告や相葉支所長の話聞きながら一番感じたのは、「感謝」であった。今回の研修に関わった人、出会った人に心から感謝した。(小倉)

## 2-3 事後研修

### 事後研修 8月27日(土)

- |                      |  |
|----------------------|--|
| ① 資料整理・教材共有          | 講師：荒川共生氏（ボルネオ保全トラスト）                           |
| ② 教師海外研修参加経験者の実践授業紹介 | 講師：大阪府立泉北高等学校 菰口修教諭<br>(2006年度・教師海外研修・マレーシア参加) |
| ③ ワークショップ            | 講師：荒川共生氏（ボルネオ保全トラスト）                           |
| ・ 海外研修における経験の整理      |  |
| ・ 授業実践に向けたカリキュラム作り   |  |

約 10 日間の海外研修での学びや気づきを共有し、サモアから帰国後に改めて感じたことなど経験の整理を行うと共に、それぞれが持ち帰った資料・教材を共有した。また、過去に教師海外研修に参加した教員による実践授業紹介をヒントに、今後、本研修での学びをどのように教材化するのか、そのカリキュラムを具体化する作業を行った。



村の代表者(マタイ)たちによる伝統的な「カバの儀式」により迎えられた参加者達。  
(首都アピア)